

# 薬の発見・発明

Discovery and Invention of Medicines

生命：A1-03121MS

素養科目 1年/後期 1単位 必修科目

科目責任者 杉山 重夫(機能分子化学研究室)

## ■ 教育目的

将来、創造的な薬学研究者・技術者として幅広く活躍できる人材を育成するために、自主的な情報収集と討議を通して問題解決を図る習慣と、プレゼンテーション能力を育成する。また、現在用いられている医薬品がどのように開発されたのかをテーマの基軸として、医薬品開発の考え方を習得する。少人数グループで話し合い、調査、まとめ、発表を行うアクティブラーニング形式の授業である。

【卒業認定・学位授与の方針：SD-①、SD-②、SD-③、SD-④】

## ■ 学習到達目標

1. テーマに従った情報収集ができる。(技能)
2. 収集した情報をまとめ、資料を作成できる。(知識、技能)
3. 資料を使って、プレゼンテーションができる。(態度)
4. 質疑応答ができる。(知識、態度)
5. 薬の発見について具体例を挙げて説明できる。(知識、技能、態度)

## ■ 準備学習（予習・復習）

予習：調査は授業時間だけでは不十分なので、放課後や休日にも行う。(1時間以上)

復習：口頭発表を行なった際は、自分で足りなかったところ、うまく行かなかったことをまとめ、次回の発表に生かす。発表時の質疑応答で、答えられなかった分は宿題となる。(30分以上)

## ■ 授業形態

グループワーク、プレゼンテーション

## ■ 授業内容

一班3～4名となるように班分けをし、各班ごとに指定された医薬品から1種類選び、その医薬品に関して調査し、パワーポイントにまとめ発表する。また質疑応答も行う。(PBL、ディスカッション、プレゼンテーション)

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	オリエンテーション	発表方法の説明、テーマ発表、グループ分け	A(5)-①-3 A(5)-①-4 A(5)-①-5
2～4	調査及び発表原稿づくり	パワーポイントを使つての発表の調査とまとめ	//
5	スライドチェック	班ごとに教員と発表スライドのチェック	//
6～7	発表	パワーポイントを使つての発表と質疑応答	//
8	フィードバック、各班自己分析	発表に対するフィードバック 各班の自己分析、教員による総括	//
9～10	調査及び発表原稿づくり	パワーポイントを使つての発表の調査とまとめ	//
11	スライドチェック	班ごとに教員と発表スライドのチェック	//
12～13	発表	パワーポイントを使つての発表と質疑応答	//
14	総括	教員と各班による総括	

## ■ 授業分担者

杉山 重夫、高取(木下) 薫(または佐々木 寛朗)、小川 泰弘、林 賢、道永 昌太郎、倉門 早苗、松永 和磨、大類 彩  
1回目のオリエンテーションと8回目のフィードバック、並びに14回目の総括は1教室で行い、教員は全員参加。  
調査、発表は2教室に別れて行う。基本的に教員は各教室2名ずつ配置する。

## ■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

出席・調査態度、発表、質問への返答、宿題(90%)、質問ををする(10%)。

## ■ 教科書

特に定めない。

## ■ 参考書

1. 「医薬品化学」、「メディシナルケミストリー」、「創薬」や「薬理学」に関する読みやすい本(図書館にあります)
2. 一般向けに書かれた薬に関する本(例：「世界を救った日本の薬」、「新薬に挑んだ日本人科学者たち」、「カラー図解 分子レベルで見た薬の働き」など、以上、講談社ブルーバックス)